

石神中学校だより14号

発行日：令和2年 10月28日

2020重点目標〈自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

文化祭テーマ 「LINK～僕らがつなぐこの瞬間～」



10月24日(土)、令和2年度文化祭が行われました。新型コロナウイルスによる感染拡大防止に伴い、来賓や卒業生、地域の方々の参観中止、そして保護者参観数の制限があるなど、多くの制約がある中での開催となりました。生徒会、実行委員会が中心となり、様々な企画と催し物、発表や動画、ステージ企画などの準備を進めてきました。各委員会では3, 2, 1年生が協力をしながら、企画運営や制作に励む姿は、ほほえましい光景の一つだったと思います。多忙な学校生活の中でも粛々と進めてきた結果、記憶に残るイベントが完成することが出来たと思います。さらに全校生で制作したビックアートは圧巻で、保護者の皆さん方も驚きと感動の声が聞かれました。これまでの準備と運営に携わった多くの関係者の皆さんに改めて御礼を申し上げます。

最後に、この文化祭で得た経験や友情、喜び、苦勞、失敗、悔しさなどを思い出に終わらせるのではなく、学校生活や日常生活など次のステップに活かしてほしいと思います。



文化祭までの準備の様子を紹介します！



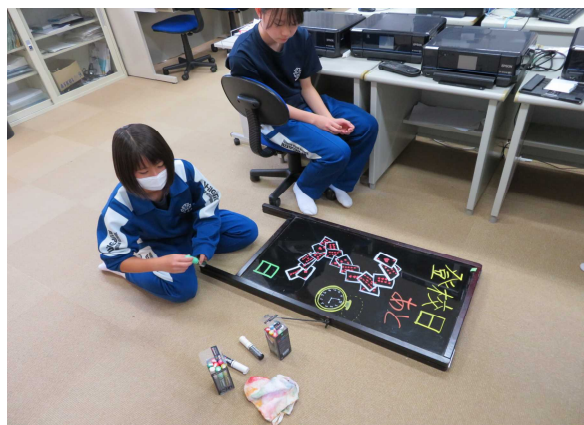
全校生で制作したビッグアート



最優秀賞を目指した合唱練習



実行委員会と生徒会執行部の活動の様子



表示パネル制作の様子

～ねがい～ <中学校生活の思い出“給食編”>

卒業式の答辞の中で中学校生活の思い出に良く出てくるのが、修学旅行や中体連、文化祭、校内合唱コンクール、学年レクリエーションなど友人等と切磋琢磨したこと、共に悩んだこと、共に協力をし、達成感を得たことなど、様々な出来事が走馬燈のように思い出されてくるようです。どれも外せない思い出の一コマでしょうか。今まであまり出てこないのが「給食」です。私が中学校生活を振り返ると何よりも楽しみの一つだったのが「給食」でした。中学校を卒業して何度給食のありがたさ、美味しさを実感できたか、中学校生活の思い出、それは給食でした。中学校時代はアルミニウムの食器、先割れのスプーン、瓶の松永牛乳。味噌汁などは食器が熱くて持てませんでした。冬になるとダルマストーブの上に置いた加湿器代わりの水の入ったボールに瓶牛乳を入れて温めたこともありました。あまりに熱くなると瓶ごと割れてその処理に時間がかかったことを思い出します。不動の人気を誇ったのが揚げパンです。油で揚げたコッペパンに砂糖がまぶしてあるだけです、何と美味しかったこと。現在では、きなこパンやココアパンなど揚げパンもバリエーションが増えました。揚げパンの時、必ずわかめとジャガイモの味噌汁がセットでした。当時は何の迷いも無く食べていましたが、よくよく考えるとパンに洋食的なスープが付くようになったのはしばらくたってからでした。今、先割れのスプーンが無くなったのを知っていましたか。スプーンとフォークが別々に出てきます。メニューによってはお箸もつきます。先割れのスプーンの時代はそれ一つで済みました。何と便利な食器だったことか。いずれにしても個々に給食にまつわる思い出は尽きることはありません。卒業後、もう一度食べることが出来たのは大学生での教育実習でした。その時の感動は自分にしか分からないと思いました。3年生にとっては、行事が終わる度に余韻が残り、そして卒業が近づいていきます。皆さんにとって記憶に残る中学校生活の思い出は何でしょうか。

